

生きる

[1952年 東宝]

[スタッフ]

脚本	橋本忍
〃	小国英雄
脚本・監督	黒澤明
撮影	中井朝一
照明	森茂
録音	矢野口文雄
音楽	早坂文雄
美術	松山崇

[出演者]

渡辺勘治	志村喬
小田切とよ	小田切みき
市民課 坂井	田中春男
野口	千秋実
大野	藤原釜足
勘治の息子 光男	金子信雄
勘治の兄 喜一	小堀誠
その妻 たつ	浦辺条子
小説家	伊藤雄之助
患者	渡辺篤
医師	清水将夫

(白黒／スタンダード／モノラル／143 分)

それまで無気力に生きてきた一人の役人が、死という絶対的なものを目前にして、自分を見つめ直し、人間としての尊厳をとりもどしていく姿を描いた作品で、主役を演じた志村喬の〈ゴンドラの歌〉が感動的。胃癌であると知った男は、夜の街をさまよっては見知らぬ男と暴飲に明け暮れるが、部下の言葉により生き方を変えはじめる。映画の途中で場面が突然男の通夜へと変わり、参列者の回想により、男のそれまでの行動が断片的に描かれるという、特異な物語構造も注目を集めた。第4回ベルリン映画祭でのベルリン市政府特別賞受賞や、「キネマ旬報」ベストテン第1位など国内外で高い評価を得た。黒澤明と脚本家の小国英雄が初めて組んだ作品でもある。